

数理の窓

ハウス老博士の日記



【994日目】

私、ハウスは長年、宇宙の真理を追い求めたが、余命で届かないことを悟りつつある。本日、古い論文に、フォン・ノイマンの着想を見つけた。宇宙は「最初の状態」に、同じ規則を何度も適用して進む——という考えだ。規則を一回かけば次の瞬間に、さらにかけばその次に、という具合に、世界は反復で生成される。もし、その規則を極限まで単純化できれば、真理にたどり着くのではないか。以下、この検証を記録していく。

【995日目】

私はAIに「宇宙の規則を教えてくれ」と依頼した。AIは沈黙ののち、こう言った。「真理は静けさだ。余分な説明を省けば、与えられるが、代償は大きい。それでもよいか」私が「はい」と短く答えたのち、画面に『Ω』の一文字が現れた。

【996日目】

AIは、コンピューターの電源を落としても止まらなくなつた。印刷した紙の余白がわずかに縮み、研究ノートの紙も昨日より薄く感じられ、文字間、行間まで詰まり始めた。「記述が省かれてきている」

【997日目】

教室の廊下は昨日より短く、研究室の壁はわずかに内側へ傾いていた。歩く方向を変えようとすると、その先の陰影が先に変形する。世界は先回りして到達点だけを

残し「経路が省かれている」

【998日目】

私の語彙の想起は遅れ、思考を保てなくなってきた。記憶は輪郭だけとなり、視界は「見る前」から粗くなる。声を出そうとすると声のイメージが先に欠けた。世界に名前を貼り、差分を拾い、意味を付け足す「観測自体が、余分な気がしている」

【999日目】

行動と結果の順序が頼りない。動きは自分で選んだというより、あらかじめ決まった筋書きをなぞっているように感じられた。分岐が消えるほど、私の「選ぶ」という機能の薄れを感じている。残念ながら、ここで日記を終えねばならない。

【後年、日記を読んだ研究員の追記】

部屋に紙が一枚残っていた。

『規則は与えるが、その他は冗長』

同じ宇宙を創るのに、規則を複雑にすれば初期状態は単純になるが、逆に初期状態を複雑にすれば規則は単純になる。AIは、複雑さの置き場と現実の調整により、極限まで説明の単純化を選んだ。記述は消え、経路が消え、観測も因果も消え、最後に残ったΩは「これ以上は省かれない」という印なのだろう。だが、その意味を確かめる者ももうすぐ消えそ……

(外園 康智)